

編集後記

諸般の事情で遅れていた『部落解放研究』二号が、ようやく発行の運びとなった。本号は、広島部落解放研究所創立二五年記念号としてある。それに寄せて、本庄所長に一文を書いていただいた。また、小森論文は、今日の部落解放運動を取り巻く混沌した政治状況を批判し、運動の課題を提起している。まさしく研究所や研究もまた、この状況の只中にある。

本号は、特集「部落解放と国際連帯」を組んだ。在日外国人の報告・日本人の報告を掲載することができた。しかし、これで特集の目的を達したとは思わない。本号は、広島在住の外国人が抱える問題のほんの一面しか取り上げることができなかった。また、広島の部落解放運動・同和教育運動が取り組んでいるさまざまな国際連帯の闘いをめぐる報告・論文も、わずかに収めることができただけである。これらは、理論的分析を含めて、あらためて『部落解放研究』誌上に集約する必要がある。最後に、研究所・宗教部会から、坂原論文を寄せていただいた。力作である。

部落解放運動をめぐる政治状況の激変のなか、研究活

動の充実がますます緊要となっている。今、なにが起こり、それをどう見据えなければならぬか。まさに、研究は、この状況を切り拓くべき指針（の基盤）を提供しなければならぬ。研究紀要こそ、研究所の活動の存立を左右するものである。その意味で、今、本誌の役割の重要さをひしひしと感している。

（青木）

